No. 4 8　２０２６年10月25日

三位一体後第二十一主日礼拝

説教　『 二人のもてなし 』

吉丸初美　師

司会	吉丸初美　さん
奏楽	自動演奏機
招詞	ローマ人への手紙 10章8節
主の祈	（ 5　6　4 ）
讃詠	5　4　6
交読詩篇	詩　5　8 編
祈祷	
讃美歌	21 － 4　7　0
使徒信条	（ 5　6　6 ）
聖書	ルカ福音書 10章38～42節
説教	（口語訳106頁、新共同訳116頁）

『 二人のもてなし 』

祈祷	
讃美歌	21 － 3　9　2
献金	
感謝	
報告	
頌栄	5　4　2
祝祷	
後奏	

次週の礼拝（聖徒の日・永眠者記念礼拝 ）

説教『 共に喜ぶ 』

ピリピ人への手紙　2章1～18節

招詞　マタイ福音書　22章18～21節

交読詩編　詩編　143編1～11節

讃美歌 ５４６、21-４７０、21-３９３、５４３

礼拝当番

今週	25 日	司会　吉丸初美　さん
次週	1 日	司会　吉丸初美　さん

会堂清掃奉仕

本日の集会

★教会学校　9時 45分

★コーヒータイム　礼拝後 ～

それぞれの思いを語り合いましょう。

今週の集会/スケジュール

★聖書を読む会　10月27日(火)10時30分～12時
創世記27章を読んでいきます、

❁めぐみ幼稚園ミニ運動会　10月28日(水)10時30分～
園庭で行います。子どもたちと保護者の方々
保育者の働きと健康を覚えてお祈り下さい。

❁めぐみ幼稚園礼拝　10月30日(金) 10時30分～

§牛田教会のチャリティーコンサート　10月31日(土)
14時開演（13時30分開場） 会場：広島牛田教会

★宗教改革記念日10月31日(土)

次週以降のスケジュール等

†聖徒の日・永眠者記念礼拝　11月1日(日) 10時30分～

§清鈴園礼拝奉仕　11月4日（水)10時30分～

★第三回目食事会　11月8日(日)12時～14時

§広島キリスト教社会館バザー　11月8日（日)10時～

§西中国教区教師研修会　11月9日（月)15時～
11月10日（火)12時　会場：山口周陽教会

●レコードコンサート　11月15日(日)13時～15時30分
チャイコフスキー　ピアノ三重奏曲　イ短調
《ある偉大な芸術家の思い出のために》
交響曲 第6番 ロ短調《悲愴》作 品74

§広島拘置所教誨奉仕　11月18日(水)13時30分～

❁めぐみ幼稚園作品展　11月21日(土) 10時～12時
13時～14時

★広島西分区交換講壇 11月22日(日)　10時30分～
広島観音町教会の塩見和樹牧師が説教担当。
吉丸師は広島観音町教会で奉仕されます。

先週の集会	男	女	計
教会学校	0	0	0
主日礼拝	1	4	5
レコードコンサート	6	3	9

◇今週の説教要旨(三位一体後第二十一主日礼拝)

『二人のもてなし』ルカ福音書 10章38～42節

「仕えること」と「もてなすこと」はどちらも愛の実践として深く結びついている。今日の聖書箇所では、家でもてなす中でどのように仕えるべきかが葛藤をもって描かれている。イエスがこの世に来られたのは「仕えるため」であった。自分を低くして他者の必要を満たすことであり、神や隣人への愛を具体的な行動で表すことである。イエスの公生涯を通して十字架上までの歩みは、まさに「仕える人」だった。そのイエスは、ここではまずマルタとマリアの隣人となられ、福音を語るという愛の奉仕をされた。そのイエスに対する二人のもてなし方は違った。マルタは立ち動くもてなしで、一方マリアは聴従で応えた。「接待」と訳されている言葉は「仕える」という意味もある。人間はそれが他者に対する愛の業と思ってもてなしていても自分の思いや行為が中心になり相手の思いを考えることを忘れ自己中心的になってしまうことがある。「善いサマリア人」の話では、互いに支え合うことを教えられた。そして、その愛の源泉と性質を示し、ユダヤ人と異邦人の垣根を壊された。ここでは男性と女性の間にも差別がないことを示し、誰彼の差別なしに婦人に対しても救いの手を差し伸べられ、当時のユダヤ社会の常識を覆した。「神がまず私たちを愛してくださったから、私たちは愛することができる」神への愛なしには、真の隣人愛はできない。私たちの中心はイエスである。続いて御言葉から離れずにキリストを証しするようにと招かれている。救いは神の言葉を聞くことから始まる。イエスの地上の御業は一つのことなしには果たされない。「マリアはその良い方を選んだのだ」イエスの奉仕にマリアは聴き従うというもてなしで応えた。私たちが自分の力で、自分の考えで奉仕をすることよりも御言葉を聞き隣人愛に繋がることを、神もイエスも喜ばれる。この世の常識や自分の価値観から自由になり神の御心を悟り行う器となりたい。私たちを養い成長させてくださるのは、私たちを愛するがゆえに独り子を十字架につけて罪から救ってくださった父なる神なのだ。その慈愛に応えたい。